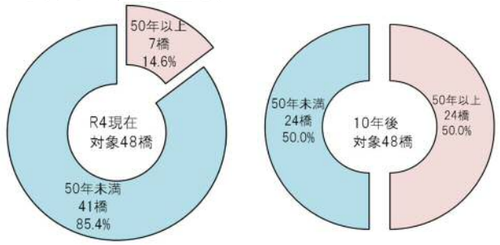
仙台市横断歩道橋長寿命化修繕計画

（令和5年3月改定）

1. 背景と目的

- 横断歩道橋は、昭和４０年代前半から５０年代後半に架設された橋が多く、老朽化対策が喫緊の課題
- 「対症療法型維持管理」から損傷が大きくなる前に修繕を行う「予防保全型維持管理」への転換
- 道路通行の安全確保や維持管理コストの縮減、予算の平準化を図る。



現　在　　10年後

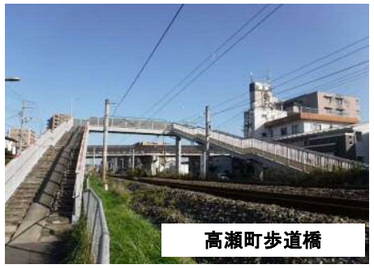
2. 計画期間

令和２年度～令和６年度（５ヵ年）

3. 対象施設の概要

本市が管理する全48橋（自由通路７橋を含む）を対象とする。

片平丁小学校前歩道橋



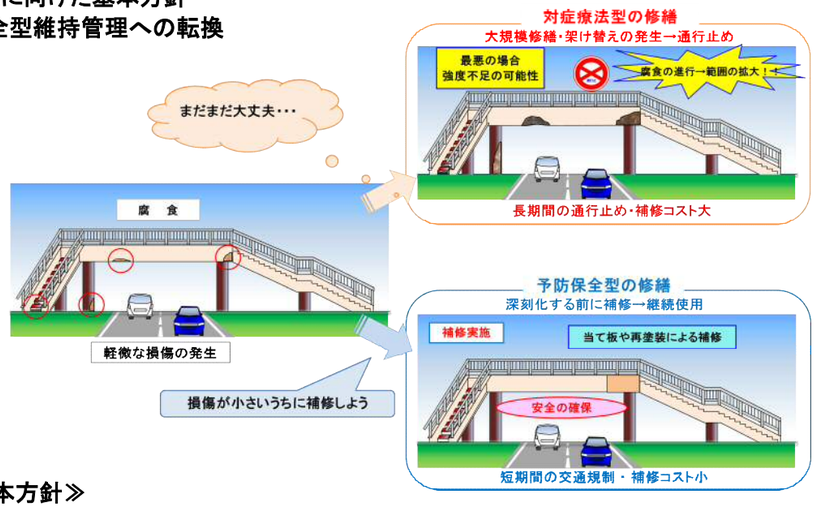
高瀬町歩道橋

鹿野公園前歩道橋

4. 長寿命化に向けた基本方針

（1）予防保全型維持管理への転換

【イメージ】



≪点検の基本方針≫

（1）定期点検

５年に１度の定期点検を実施することにより健全度を把握する。

【点検結果】

本市が管理する横断歩道橋の健全度は以下の通りである。

各施設で確認されている主な損傷は、以下に示すような鋼部材の腐食・変形・欠損などである。

健全度Ⅰ（健全）	６橋	
Ⅱ（予防保全段階）	２２橋	
Ⅲ（早期措置段階）	１９橋	
Ⅳ（緊急措置段階）	０橋	
未点検	１橋	※錦ケ丘歩道橋（令和4年度管理引継ぎのため）

横断歩道橋点検状況

主桁の防食機能の劣化

プレートの腐食・変形・欠損

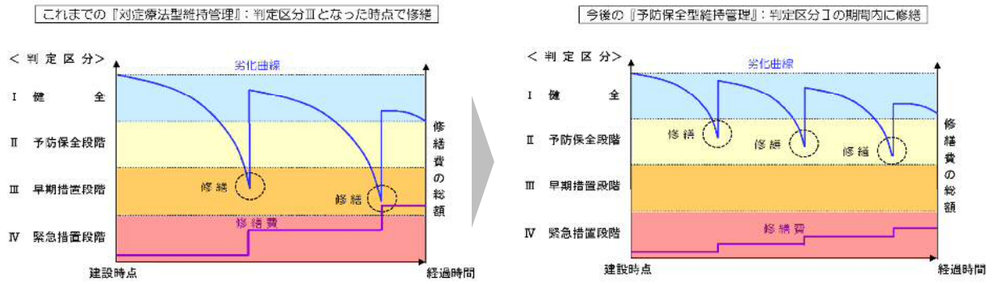
対傾構部の腐食

橋脚部の防食機能の劣化

≪修繕の基本方針≫

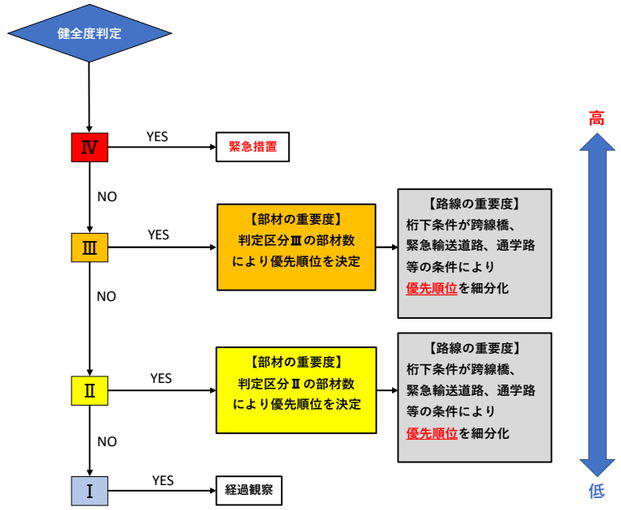
（1）予防保全による修繕時期の考え方

『予防保全型維持管理』では、道路通行の安全確保およびコスト縮減を図るため、損傷が深刻化する前の健全度評価”Ⅱ”の期間内に修繕を実施する。



（2）優先順位の考え方

点検結果に基づく施設の健全度によるほか、部材の重要度や、路線の重要度を総合的に判断して優先順位を決定する。



- 部材の重要度：対象部材の各々の判定区分の数により評価
  （対象部材：主桁・横桁・床版・階段部・下部工・支承）
- 路線の重要度：跨線橋、緊急輸送道路指定の有無、通学路指定の有無 等

5. 新技術活用について

（1）新技術活用方針

定期点検や修繕において、新技術の活用を含めた比較検討を行い、事業の効率化やコスト縮減を図る。

（2）コスト縮減目標

令和６年度までに、１橋で新技術等の活用を行い、従来技術を活用した場合と比較して、約２００万円のコスト縮減を目指す。

6. 集約化・撤去について

（1）集約化・撤去方針

横断歩道橋については、道路の利用状況に応じ地域住民の合意を得られた場合は、集約化・撤去を行う。

（2）コスト縮減目標

令和１５年度までに、１橋の一部撤去により、約９００万円の維持管理費用の縮減を目指す。

7. 予防保全の取組みによる効果

①健全性の向上

定期的の実施による現状把握により、適切な修繕工事を計画的に実施できるため、施設の健全性が向上

②コストの縮減

予防保全型維持管理への転換により、維持管理コストの縮減を実現

③予算の平準化

劣化予測による対策時期の分散により、計画的な修繕が可能となり、予算の平準化を実現